

令和元年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省31-29)

別紙1

施策名	目標6-1 環境リスクの評価										担当部局名	環境安全課 環境リスク評価室	作成責任者名 (※記入は任意)	環境安全課長 瀬川 恵子 環境リスク評価室長 山本 英紀	
施策の概要	化学物質による人の健康や生態系に対する環境リスクを体系的に評価										政策体系上の 位置付け	6. 化学物質対策の推進			
達成すべき目標	<ul style="list-style-type: none"> 一般環境中の化学物質の残留状況を調査し、基礎資料として各施策の策定に活用する。 化学物質の環境リスク初期評価調査を実施し、環境を経由した化学物質による影響の未然防止を図る。 子どもの健康と環境に関する全国調査を実施し、次世代育成に係る健やかな環境の実現を図る。 化学物質の内分泌系かく乱作用について調査研究を実施し、各化学物質が人の健康や生態系に及ぼす影響について明らかにし、リスク評価を実施する。 										目標設定の 考え方・根拠	<ul style="list-style-type: none"> 中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会 子どもの健康と環境に関する全国調査基本計画 化学物質環境実態調査のあり方に関する検討会報告書 化学物質の内分泌系かく乱作用に関する検討会 	政策評価実施予定時期	令和2年6月	
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値						測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠				
	基準年度		目標年度		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度		32年度			
1 化学物質環境実態調査を行った物質・媒体数	-	-	80	平成31年度	80	80	80	80	80	80	-	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質対策に係る関係課室から一般環境中における残留状況を把握するために調査要望のあった化学物質のうち、優先度の高いものを調査対象物質として毎年度選定することが、「化学物質環境実態調査のあり方について」により定められている。また、目標値は、過去の実績値を勘案して設定しており、今年度も同程度の水準で着実に調査を実施することとしている。 			
					88	77	94	89	97	-	-				
測定指標	基準		目標		年度ごとの目標値						測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠				
	基準年度		目標年度		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度		32年度			
2 環境リスク初期評価実施物質数	-	-	14	-	14	14	14	12	14	14	-	過去の実績及び情報の収集・検討状況を踏まえ設定した。			
					18	22	15	12	17	-	-				
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値						測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠				
	基準年度		目標年度		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度		32年度			
3 内分泌かく乱作用に関して、文献等を踏まえ評価対象として選定した物質数(累積)	132	-	200	32年度	80	100	120	140	160	180	200	<ul style="list-style-type: none"> EXTEND2010において、文献や海外での知見を踏まえて、100物質程度を評価の対象として選定することを目標とされており、EXTEND2016においても合計で200物質を選定する。 			
					114	132	155	175	184	-	-				

測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値						測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度		32年度
4 子どもの健康と環境に関する全国調査の進捗状況	—	—	全国10万人のデータ解析を行い、健康と環境の関連性を明らかにする。	44年度	—	—	参加者のフォローアップ及び化学分析の進捗	参加者のフォローアップ及び化学分析の進捗	参加者に調査を継続いただくための取組及び化学分析の進捗	参加者に調査を継続いただくための取組及び化学分析の進捗	参加者に調査を継続いただくための取組及び化学分析の進捗	次世代育成に係る健やかな環境の実現を図るためには調査の推進が不可欠であるため、「調査の推進」を測定指標としている。また、調査の推進には「参加者のデータの解析を行うことで、健康と環境の関連性を明らかにすること」が必要であるために目標と設定している。さらに、目標を達成するためには、解析に係るデータの蓄積と化学物質の分析が必須であるため、施策の進捗状況として参加者に調査を継続いただくための取組と化学分析の進捗を確認していくこととしている。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額)			当初予算額	関連する 指標	達成手段の概要等					平成31年 行政事業レビュー 事業番号	
	28年度	29年度	30年度	31年度								
(1) 化学物質環境実態調査費(昭和49年度)	319 (286)	319 (292)	326 (305)	368	1	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 一般環境中の化学物質による残留状況を把握し、各種化学物質関連施策に活用するため、関係課室からの要望物質について全国規模の調査を実施する。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 80調査物質・媒体数の分析を実施し公表する。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会の議論も踏まえ、着実に一般環境中の化学物質の残留状況調査を実施する。</p>					0289	
(2) 化学物質環境リスク初期評価推進費(平成9年度)	81 (78)	81 (78)	81 (74)	83	2	<p><達成手段の概要></p> <p>環境リスク初期評価を実施する。</p> <p><達成手段の目標></p> <p>環境リスク初期評価を実施し、14物質程度を目標に結果を取りまとめ、公表する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会の議論も踏まえ、着実に環境リスク初期評価を実施することにより化学物質対策の推進に資する。</p>					240	
(3) 環境汚染等健康影響基礎調査費 ※ 平成28年度までは化学物質の内分秘かく乱作用に関する事業に係る額を記載	200 (165)	201 (204)	201 (195)	226	3	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 化学物質の複合影響等についての知見の収集・分析を行うとともに、化学物質が及ぼす健康影響についての評価方法及びメカニズム解明方法等についての検討を行う。 化学物質の内分秘かく乱作用に関する評価等推進するため、必要な調査研究や試験法の開発、試験等を実施する。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 化学物質の複合影響等及びについて評価検討を行う 必要な調査研究や試験法の開発等の進展。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 化学物質が及ぼす健康影響についての評価、メカニズム解明 各化学物質の内分秘かく乱作用を評価するための手法等を確立する。 					0288	
(4) 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)(平成22年度)	5,763 (5,546)	5,360 (5,300)	5,054 (4,913)	5,905	4	<p><達成手段の概要></p> <p>10万組の親子を対象とし、13年間にわたって質問票による追跡調査、化学分析等を着実に実施すると共に、その結果を用いたデータ解析を計画的に推進する。</p> <p><達成手段の目標(44年度)></p> <p>子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の実施により、全国10万人データの解析を行い、健康と環境の関連性を明らかにする。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の実施により、小児の発育に影響を与える環境要因を解明し、次世代育成に係る健やかな環境の実現に寄与する。</p>					287,306	
施策の予算額・執行額	6,363 (6,075)	5,962 (5,874)	5,661 (5,487)	6,581	施策に係る内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)							